



齋藤陽道《星の情景》2019年、発色現像方式印画
東京都写真美術館蔵

ライフ 2 ^{きみ みらい}すべては君の未来

分身ロボットからアール・ブリュット、現代の写真やアートまで、10組の表現者と描き出す希望。

会期 | 2024年10月5日（土）—12月8日（日）

会場 | 熊本市現代美術館 ギャラリーⅠ・Ⅱ

平素から、当館の展覧会活動に対して、ご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび熊本市現代美術館では「ライフ 2 すべては君の未来」展を開催いたします。

2020年に開催した「ライフ 生きることは、表現すること」展は、作品を通して「弱さ」の中にある、私たちが大切にすべき価値観について問いかけるものでした。あれから4年。私たちは、様々な地震や災害、また地球規模での新型コロナウイルス感染症を経験した時代に生きています。

そして、世の中は、さらに答えのない、予測不能な時代に向かっています。続編となる本展では、孤独や不自由さ、また容易に答えの出ない、矛盾に満ちた状況に向かい合いながらも、喜びや希望を忘れず、未来に向かって制作を続けてきた表現者や、それを支える人たちの姿までを含めて紹介します。

つきましては、ご多忙の折とは存じますが、本展についてご紹介いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

出品アーティスト 10 組

分身ロボット OriHime、荒木聖憲、曲 梶智恵美、駒田幸之介、内野貴信、東勝吉、齋藤陽道、石川真生、キュンチョメ、レインボー岡山

展覧会をめぐるキーワードと概要

障害／不自由／外出困難／ロボット／テクノロジー／就労／アール・ブリュット／ちぎり絵／編み物／絵画／家族／支援する人／木こり／老人ホーム／孤独／水彩画／故郷／仲間／ろう者／写真／手話／子育て／沖縄／琉球／戦争／基地／ミックスレイシャル／ウチナーグチ／叫び／ビデオ／性別違和／名前／ユーモア／LGBTQ／虹／希望／未来…

離れていてもつながり、働く

本展では、まず初めに分身ロボット OriHime を紹介する。吉藤オリィ（よしふじ・おりい 1987 年-／東京都在住）が開発した OriHime には、カメラやマイク、スピーカーが搭載され、外出困難な人であっても、まるでそこにいるかのようにコミュニケーションすることができる。会場内では土日祝の午後を中心にパイロットと呼ばれる操作者が、遠く離れた場所から実際に OriHime を動かして、来場者とコミュニケーションを取ったり、OriHime の作品解説を行うなどして、美術館のスタッフとして働くことを実現する。

*OriHime は株式会社オリィ研究所の登録商標です。



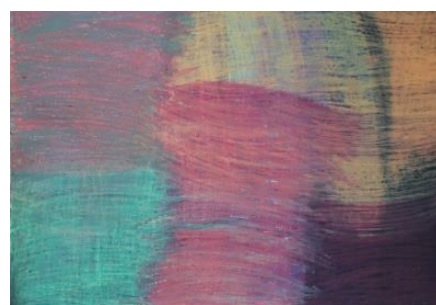
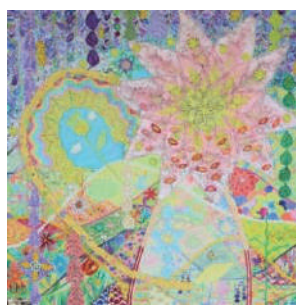
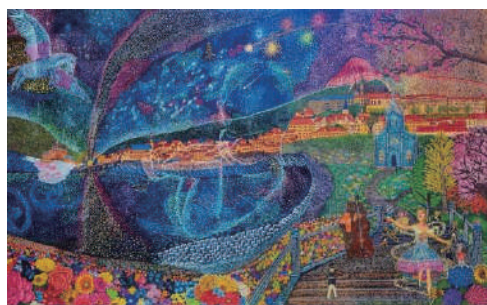
分身ロボット OriHime

私という存在の証明

続いて、アール・ブリュットの 4 人のアーティストに注目する。自身の思いをのせた緻密なちぎり絵で風景や想像の世界を描く荒木聖憲（あらき・みのり 1994 年-／玉名市在住）、毛糸などのモチーフを重層的に組み合わせ心のありようを紡ぐ曲梶智恵美（まがりかじ・ちえみ 1981 年-／熊本市在住）、紙の幅や裏表を自由に飛び超えて心地よいリズムにのせてペンを走らせる駒田幸之介（こまだ・こうのすけ 1989 年-／熊本市在住）、日常の体験や発見をポップで明るい色彩と明快なフォルムで描く内野貴信（うちの・たかのぶ 1974 年-／熊本市在住）である。熊本で「アール・ブリュット」という言葉が広く知られるようになったのは、今年で 10 周年を迎え作家の発掘や支援を続ける「アール・ブリュット パートナーズ熊本」の存在が大きい。家族や施設スタッフとともに彼・彼女らの表現を後押しし、成長を見守ってきた多くの人たちの姿が作品の陰に滲む。

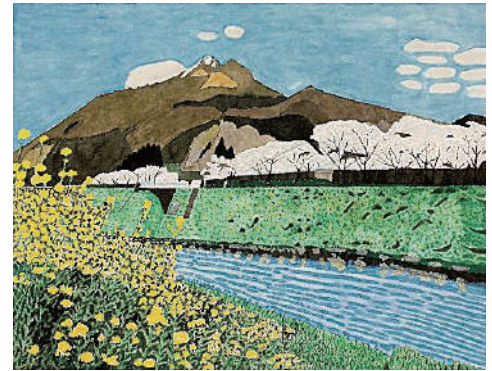


上：内野貴信（参考作品）、
下左：荒木聖憲《星月夜の歌姫》2020 年、
下中：曲梶智恵美《invisible view》2022 年、
下右：駒田幸之介《無題》2021 年、社会福祉法人 寿量会蔵



素晴らしい孤独がここにある

東勝吉（ひがし・かつきち 1908-2007年/大分県で没）は、大分で長く木こりとして働いた後、由布市の老人ホームに入所していた。趣味や身寄りもなかったが、83歳のある日、絵の具セットを贈られたことをきっかけに、カレンダーや新聞の切り抜きを見ながら由布院の風景を猛然と描き始め、99歳で亡くなるまでの16年間で100点以上の水彩画を残した。その東の作品に感銘を受けた由布院の人々は、NPO法人由布院アートストックを立ち上げ、作品の保存や展示活動に取り組んでいる。例え無名で孤独であったとしても、誰かの心をゆさぶる作品を描くことができ、何かを始めるのに遅すぎるといえることはないことを、東の作品は教えてくれる。



東勝吉《由布院の春》1998年、
NPO 法人由布院アートストック蔵

音のない世界から見つける光

齋藤陽道（さいとう・はるみち 1983年-/熊本市在住）は、先天性の感音性難聴をもって生まれ、発音指導などを受けながら一般の小中学校に通っていたが、周りのコミュニケーションについていけず孤独な日々を送っていた。その後、進学した石神井ろう学校で手話に出会って以降、手話の持つ世界の奥深さに魅了され、「ろう者」として生きていくことを決め、写真家としての活動を始める。本展では、齋藤が出会った障害のある人や、そうでない人の姿、そして生き物や自然の風景などを、等しく透明感あふれる眼差しで切り取った代表作「感動」シリーズを軸に、その作品世界を紹介する。



齋藤陽道「感動」シリーズより、2011年、
発色現像方式印画、
東京都写真美術館蔵

生きる限り沖縄を撮り続ける

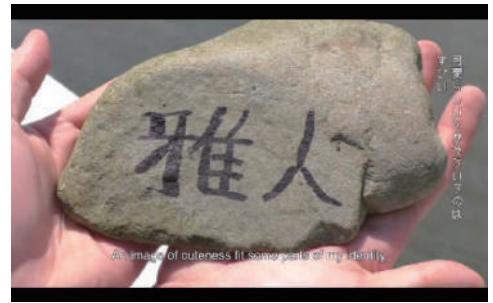
石川真生（いしかわ・まお 1953年-/沖縄県在住）は、WORKSHOP写真学校東松照明教室で写真を学び、70年代以降、沖縄をめぐる人々に密着しながら作品を制作してきた。被写体となる人々と正面から対峙し、立場を越えて取材することで、沖縄の生々しくかつ複雑な現実を写しだす。本展では、米軍基地勤務の黒人兵のためのバーで働きながら同僚の女性たちを撮影した初期の代表作「赤花 アカバナ 沖縄の女」のほか、「沖縄芝居」「港町エレジー」「ヘリ基地建設に揺れるシマ」「大琉球写真絵巻」（Part1）等のシリーズを展示する。



石川真生「赤花 アカバナ 沖縄の女」シリーズより、
1975-1977年

私が決めた 私の名前を 声枯れるまで 大きな声で叫ぼう

キュンチョメ（ホンマエリ 1987年-、ナブチ 1984年-/神奈川県在住）は、制作行為を「新しい折り」とするとらえ、世界各地でそこに関わる人々と向き合い、時にユーモアを交えながら、様々な社会問題をテーマとした作品を発表してきた。近年はフィリピンやハワイに滞在し、圧倒的な自然や多様な価値観に触れることで更に表現の幅を広げている。本展で紹介するビデオ作品《声枯れるまで》（2019年）では、出生時の性別に違和感を持ち、自らに新たな名前をつけた人たちとキュンチョメが対話を重ねる様子が描かれる。共に時間を過ごししながら、その新しい名前を世界に響きわたらせるために、一緒になって何度も何度も、声枯れるまで叫ぶ。



キュンチョメ《声枯れるまで》2019年、ビデオ

虹をかける人

この世には「虹をかけること」を仕事にする人がいる。
レインボー岡山（1962年-/阿蘇郡在住）は、熊本市現代美術館の開館記念展「ATTITUDE2002」にレインボーマンとして登場して以来、20年以上、様々な場所に虹をかけ続けている。その虹は、風船やビニール製のテープなど、安価な材料を用いて岡山がデザインを行い、その場に集まった人たちが互いに協力し合うことで、ダイナミックな風景が出現する。
空にかかる虹は、あらゆる人に等しく開かれている。そして私たちには、例えば小さくとも世の中に虹をかけることのできる力が備わっているということ、レインボー岡山は気づかせてくれる。



レインボー岡山 ©Hiroshi Sugahara

開催概要

展覧会名：ライフ2 すべての君の未来

開催期間：2024年10月5日（土）－12月8日（日） 56日間

会場：熊本市現代美術館 熊本市中央区上通町2-3 びぶれす熊日会館3階

開館時間：10:00-20:00（展覧会入場は19:30まで）

休館日：火曜日

観覧料：

	一般	シニア (65歳以上)	学生 (高校生以上)	中学生以下
当日	1300円	1000円	800円	無料
前売・団体	1100円	800円	600円	

※前売券は10月4日（金）まで当館にて販売

※各種障害者手帳をご提示の方とその付き添い1名は無料

※10月12日（土）は開館記念日につき入場無料

主 催：熊本市現代美術館[熊本市、公益財団法人熊本市美術文化振興財団]、熊本日日新聞社
 助 成：一般財団法人地域創造、公益財団法人小笠原敏晶記念財団
 協 力：アール・ブリュット パートナーズ熊本、NPO 法人 由布院アートストック
 後 援：熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本県文化協会、熊本県美術家連盟、
 熊本国際観光コンベンション協会、NHK 熊本放送局、J:COM 熊本、エフエム熊本、FM791

展覧会関連イベント [予定]

※展覧会イベントは変更になる場合があります。最新情報は熊本市現代美術館までお問合せいただくか、ホームページでご確認ください。

◇分身ロボット OriHime パイロットとお話してみよう

パイロットは会場内で土日祝の下記の時間、OriHime の解説などを行います。

多様なバックグラウンドを持ち、様々な場所からオンラインで美術館スタッフとして働くパイロットと交流してみませんか？

日 時：10:00～16:00 10/5（土）、12（土）

13:00～16:00 10/6（日）、13（日）、14（月祝）、19（土）、20（日）、26（土）、27（日）

11/2（土）、3（日祝）4（月振）、9（土）、10（日）、16（土）、17（日）23（土祝）

24（日）、30（土）、12/1（日）、7（土）、8（日） 以上予定

場 所： 展覧会場内（要展覧会チケット）

◇吉藤オリィ×日比野克彦 プレトーク

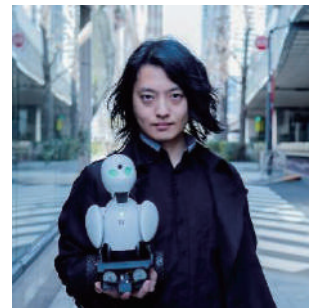
分身ロボット OriHime の開発について語っていただきます。

日 時：10月4日（金）11:00～12:00

出 演：吉藤オリィ（分身ロボット OriHime 開発者／*オンライン出演）、
 日比野克彦（当館館長）

場 所：ホームギャラリー

定 員：80 名（先着順）、参加無料



吉藤オリィと分身ロボット OriHime

◇オープニングトーク

出品作品や近作について語っていただきます。

日 時：10月5日（土）10:30～12:00 各 30 分程度

出 演：石川真生（写真家）／キュンチョメ（アーティスト）

場 所：ホームギャラリー

定 員：80 名（先着順）、参加無料

◇レインボーワークショップ

レインボーマンと一緒に虹のトンネルをつくろう

日 時：10月5日（土）、11月30日（土）10:00～15:00（*12:00～13:00 休憩）

講 師：レインボー岡山（アーティスト）

場 所：展覧会場内

参加料：要展覧会チケット

◇上映会「99 NINETY-NINE 東勝吉 99 歳 孤高の無名画家」

東勝吉さんのドキュメンタリー上映会とアフタートークを行います。

日 時：10 月 19 日（土） 上映 14:00～14:45 トーク 14:45～15:30

講 師：大谷隆広（映画監督）、由布院アートストックメンバー

場 所：ホームギャラリー

定 員：80 名（先着順）、参加無料

*日本語字幕上映及び手話通訳あり

◇齋藤陽道 筆談トーク

齋藤陽道さんと担当学芸員が作品について筆談で語ります。

日 時：11 月 3 日（日祝） 14:00～15:30

講 師：齋藤陽道（写真家）

場 所：ホームギャラリー

定 員：80 名（先着順）、参加無料

◇オープンアトリエ

アール・ブリュットのアーティストが公開制作を行うほか、作品の体験をすることができます。

日 時：11 月 9 日（土） 13:00～15:00（*公開制作）

講 師：荒木聖憲、曲梶智恵美、駒田幸之介、内野貴信（予定）

場 所：アートラボマーケット

参加料：無料

◇CAMK ファミリーツアー

0-6 歳の子どもと家族、友人の皆さんと一緒にゆっくりと展覧会を楽しむツアー。

妊娠中のプレママやプレパパも歓迎します。

日 時：10 月 26 日（土） 10:30～11:30

集合場所：展覧会場入口

定 員：7 組（事前申込制）、大人は要展覧会チケット

◇ギャラリーツアー

担当学芸員が展覧会についてわかりやすく案内します

日 時：11 月 2 日（土）、17 日（日）、12 月 8 日（日） 14:00～15:00

集合場所：展覧会場入口

参加料：要展覧会チケット、予約不要

*11/17 は手話通訳付

◇一点じっくり鑑賞会

ファシリテーターと会話をしながら、じっくりと1つの作品を観てみましょう。

日 時：11月4日（月振） 13:30～14:30

集合場所：展覧会場入口

参加料：要展覧会チケット、予約不要

記者発表

2024年10月4日（金）13:30～

* 一般公開 10月5日（土）10:00～

タイムスケジュール

13:00 受付開始

13:30 記者発表

- ・会場案内（担当学芸員によるツアー形式／約60分）
- ・個別取材・撮影タイム（約60分）

16:00 会場クローズ

* 記者発表および内覧会へご参加予定の方は事前にご一報ください

注意事項

- * 作品保護のため、館内では**鉛筆**をご利用ください。お持ちでない方には貸出をいたします。（ボールペン・シャープペンシルのご使用はお控えください。インク、先のとがったものによる作品の破損を防ぐためです。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします）
- * 作品保護のため、お手回り品（リュック等）が壁や作品に触れないよう、ご注意をお願いいたします。（会場でご使用にならないお荷物はコインロッカーをご利用いただくか、お預かりも出来ますのでお声がけください）
- * 受付にてお名刺を1枚頂戴いたします。お持ちでない場合は芳名帳へのご記入をお願いします。
- * 新型コロナウイルス感染症拡大防止にご協力をお願いしております。

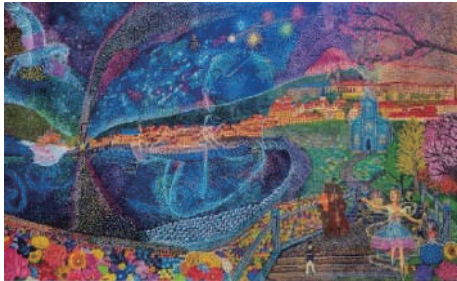
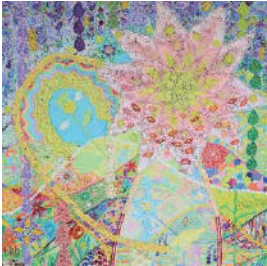
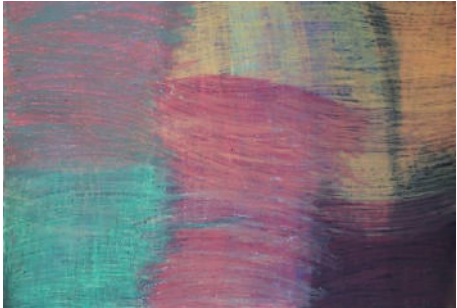
広報用画像

広報用画像をご希望の方は下記内容をメールでお知らせください。広報担当からご連絡いたします。

- ① 掲載媒体・掲載時期
- ② 希望画像 No.
- ③ ご担当者様のお名前、ご連絡先（メールアドレス等）

【使用に際しての注意事項】

- * 使用目的は、本展のご紹介に限ります。本展終了後の使用は出来ません。
ご使用後は（掲載、未掲載に関わらず）画像データを削除してください。第三者への譲渡は禁止します。
- * 作品キャプション・クレジットを明記してください。
- * トリミング、部分使用、文字等を重ねての使用はできません。
- * 再放送、転載など2次利用をされる場合には、別途申請いただきますようお願い致します。
- * 基本情報、図版使用の確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で担当までお送りいただきますようお願い致します。
- * 掲載紙・誌、同録 DVD 等を一部寄贈してください。（WEB 媒体の場合は URL をお知らせください）
- * 会期中の会場取材・撮影をご希望の場合は広報担当までご連絡ください。

	
1 齋藤陽道《星の情景》2019 年、発色現像方式印画、東京都写真美術館蔵	2 石川真生「赤花 アカバナー 沖縄の女」シリーズより、1975-1977 年
	
3 東勝吉《由布院の春》1998 年、NPO 法人 由布院アートストック蔵	4 吉藤オリィと分身ロボット OriHime
	
5 荒木聖憲《星月夜の歌姫》2020 年	6 曲梶智恵美《invisible view》2022 年
	
7 駒田幸之介《無題》2021 年、社会福祉法人 寿量会蔵	8 内野貴信《ちょうちょ》2024 年



9

キュンチョメ 《声枯れるまで》2019 年



10

レインボー岡山 ©Hiroshi Sugahara

お問い合わせ先

熊本市現代美術館（広報担当：手嶋彩香 学芸担当：坂本顕子）

〒860-0845 熊本市中央区上通町 2-3 TEL：096-278-7500

FAX：096-359-7892 HP：www.camk.jp E-mail：gamadas@camk.or.jp



- ・美術館入口(びふれす熊日会館 3 階) まで、通町筋電停又はバス停から徒歩 1 分です。電車通り側歩道から、エスカレーター又はエレベーターをご利用ください。
- ・「びふれす熊日会館」の駐車場は、数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。